

編 集 後 記

2002年度は、経済学部にとって新カリキュラム導入の年でした。この新しいカリキュラムでは、経済学部生の第2外国語履修は必修ではなくなりました。大学では、(ほとんど)英語しか課さない高校とは異なり、長らく2ヶ国語必修が続いてきました。その理由は、最先端の情報を得るために外国書を読み解き、かつ、高校よりもより広い教養を身に付けるためであったと言えます。時代は変わり、まず全国の理系学部で『未修外国語の学習よりも、もっと英語の力をつけるべきだ』といった声から第2外国語必修がはずされてきました。愛知大学経済学部においても第2語学を必修からはずすことが決められたとき、未修語学担当者は、履修者が激減するのではないかと心配しました。しかし、結果的には9割以上の学生が2ヶ国語履修を選択しました。入学してくる学生の学力低下や無気力が問題視される昨今ですが、学生達は大学生活に対して彼らなりの意欲と期待を持って入学してくることの表れではないかと思えます。だからこそ、今後の語学教育の現場では、興味を引き出し意欲をそがないよう工夫を重ねることが一層求められるということでしょう。

最後に、本号は内田武彦教授、王硯農教授、大呂義雄教授の退職記念号となっております。長年、本学の語学教育に携わってこられたことに感謝を申し上げますとともに、今後のご健康をお祈りいたします。

(N. S.)

『言語と文化』 第8号 (通巻第35号)

2003年2月 印刷
2003年2月 発行

発 行 愛 知 大 学 語 学 教 育 研 究 室
〒441-8522
豊 橋 市 町 畑 町 TEL(0532)47-4170
〒470-0296
西加茂郡三好町黒笹370 TEL(0561)36-5621

印 刷 有 限 会 社 三 愛 企 画